

## ◆いまこそ7：2：1考動を

時代の変わり目にコロナ騒動が起き、世の中は「盥の水」の如くである。右往左往しながら社会が構造的に激変している。それに振り回され、日々の経営になりがちであるが、持続性企業を目指すなら、このような時こそ「2：1」の考動が併せて出来る経営が求められていることを確認したい。その辺の雰囲気を覗いてみよう。

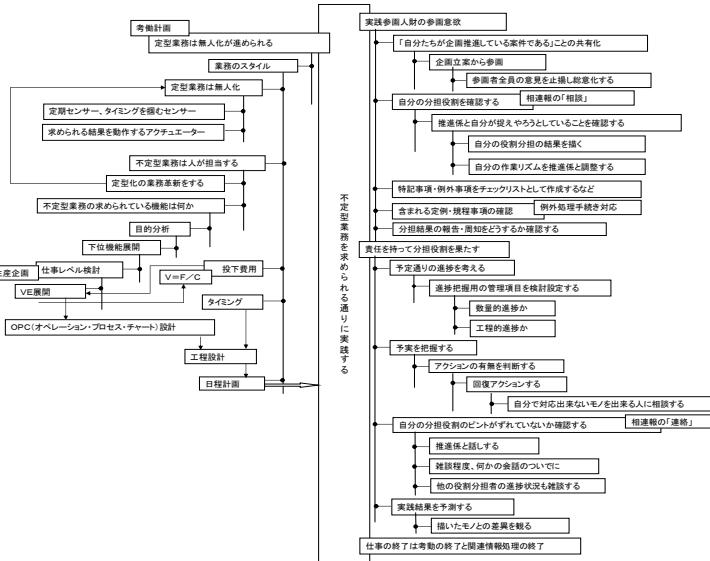
DX化の途中の現代は、邪魔者扱いせず旧来プロといわれた人財をどこまで使い切るかがポイントであろう。確かに、旧人財は将来的には不要化する。かといって、次世代の経営スタイルではいま生きて行けない。いまはまだ旧人財で如何に生き延びるかということになる。すなわち、現代の経営は次世代の事業・経営の創造、旧事業での存続を同時並行的に行うことが求められていることを再確認したい。

コロナ騒動で人のライフスタイルが激変した。広域市場で誕生したアメリカンマーケティングは離隔社会化した現代の日本社会にも参考になる。特に、少人数化したりアルとバーチャルが融合したようなコミュニティらしきモノが出来る兆しがある。これらに如何に対応するかを考えることも無視できないように思う。

## ◆どのような仕事をさせるかではなくどのように仕事をさせるか

立場に見合った事が出来ていない役付者が目に付くようになった。何が出来ていないのかを三現視点でとらえると、自分で仕事を何でもかんでも抱え込んで肝心な立場の役割が果たせていない。要は現代ますます重要性を増している「協働」が下手で、部下や関係者を動かすことが出来ないでいることが少なくない。

### フレームチャート-実践力発揮の基本型-



## ◆IoTは情報系経営機能を無人化する

企業のシステムを広義に捉えると、人間系・コンピュータ系・機械系・治工具系などと捉えることが出来よう。これらを総称して「広義のシステム」と捉え、このうちコンピュータ系を中心とした経営をDX経営と呼ぼう。

DXのシステム構造は3つからなる。このうちの1つにその企業の経営の知恵とパワーの塊である「情報系」がある。これは、人間系と人間が創る「人間系以外」とに分かれる。「人間系以外」は定型業務のシステム化である。このシステムは、IoTと判断機能を含むインターフェイスコンピュータとで個々にシステムを創り人間を介さず管理業務を自働する。

「人間系以外」と「人間系」とのシステムが如何に協働するかが現代の経営となる。

## ◆系列と産地、サプライチェーンとどこが違うか

学問的に議論するつもりはない。産業社会の実務家として「どのように捉えるか」である。

「系列」は売買関係の固定化、「産地」は同一地域の弱小企業の売買協力連合体化、「サプライチェーン」は売買の自由社会化。

「系列」で弱小企業は親企業とともに世界的活躍が出来るまでになった。産地は世界的な特徴的事業や産業を創った。サプライチェーンは力のある企業や活かす知恵を持つ企業が力を発揮出来る社会を創った。

これらの構造変化は日本の産業の強みを失うことになったのではないか。

## ◆BSOの人づくり講座のご案内

- ・ IoT研究会
- ・ 次世代経営幹部養成研修「霧研」  
開催中！！

詳しい記事やその他の情報は、BSOのホームページ <http://www.bso.co.jp> へ

情報てんこもりは、弊社の協働活動（受託事業・企画事業・出版事業）のタイムリーな情報をいち早く多くの方々に知っていただく為に発信しております。（お問い合わせは shienki kaku@b s o . c o . j p まで）

